

32 の地の美、地の心、知の技
青森県伝統工芸品
Traditional Crafts from AOMORI Prefecture
OFFICIAL GUIDE BOOK



https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/shoko/chiijisangyo/dento-kogeji_aomori.html



青森県商工労働部 地域産業課

〒030-8570 青森市長島1丁目1番1号
TEL:017-734-9375 FAX:017-734-8107

発行：2023年3月 青森県



青森県伝統工芸品とは

青森県には、歴史と風土に培われ、生活の中で育み受け継がれてきた工芸品が数多く存在します。

その声を高め、工芸品製造業者の製造意欲の向上及び工芸品産業の育成・振興を図ることを目的とし、平成8年に創設しました。

■ 指定要件

- 1 主に日常生活の用に供されるものであること。
- 2 製造工程の主要部分が手工業的であること。
- 3 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
- 4 原材料が伝統的に使用されてきたものであること。
- 5 おおむね50年以上の歴史を有すること。

以上の要件をすべて備え、青森県伝統工芸指定審査会の意見を聴いて適当と認められるとき、知事から「青森県伝統工芸品」に指定されることになります。

■ 青森県伝統工芸品マーク



「人」と青森県の「A」を暗示しながら毛筆で「伝統性」を、底辺の長方形で「現代性」を表現しています。
「地の美(Red)」は、青森県伝統工芸品の「美しさ」と伝統工芸士の「情熱」をイメージ。
「地の心(Green)」は、青森県の伝統工芸品に込められた「温もり」「和む」などのココロをイメージ。
「知の技(Blue)」は、青森県の伝統工芸品と伝統工芸士の知性ある「技」と創造性をイメージしています。

青森県伝統工芸士とは

県指定伝統工芸品製造業者のうち、高度の技術・技法を保持する者を県伝統工芸士と認定することにより、社会的な評価を高めるとともに、従事意欲と技術の向上を図り、伝統的技術又は技法の指導者として工芸品の振興、後継者の育成と伝統工芸品の次世代への継承に寄与することを目的とし、平成13年度に創設しました。

■ 認定要件

- 1 青森県内に居住していること。
- 2 伝統工芸品の製造の実務経験年数が12年以上あり、かつ現在もその製造に従事していること。
- 3 伝統工芸品の製造に関する高度の伝統的技術又は技法及び必要な知識を有し、その維持又は発展に努めていること。
- 4 後継者育成に熱意のある人。
- 5 青森県伝統工芸士にふさわしい高潔な人格を有すること。
- 6 経済産業大臣認定の伝統工芸士でない人。

以上の要件をすべて備え、青森県伝統工芸指定審査会の意見を聴いて適当と認められるとき、知事から「青森県伝統工芸士」に認定されることになります。

国が指定する伝統的工芸品

昭和49年5月25日に交付された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき経済産業大臣が指定するもので、次の5つの要件が必要です。

■ 認定要件

- 1 主として日常生活に使われるものであること。
- 2 主な製造過程が手工業であること。
- 3 伝統的な技術・技法により作られるものであること。
- 4 伝統的に使用されてきた材料を使っていていること。
- 5 一定地域に生産者が集まっていること。

以上の要件をすべて備え、伝統的工芸品産業審議会がそれを認めたとき、経済産業大臣から「伝統的工芸品」に認定されることになります。

■ 伝統的工芸品マーク



青森県伝統工芸士一覧

1 津軽塗

- ・片山 勉 / 弘前津軽塗商工業協同組合
- ・秋田 良一 / 弘前津軽塗商工業協同組合

2 津軽焼

- ・高野 博 / 高野陶房
- ・野呂 薫 / ひろの窯
- ・小山 陽久 / 津軽千代造窯
- ・坂本 羊子 / 津軽藩ねぶた村

3 八戸焼

- ・渡辺 真樹 / 渡辺陶房

4 津軽びいどろ

- ・芳賀 清二 / 北洋硝子株式会社
- ・篠原 義和 / 北洋硝子株式会社
- ・神 正人 / 北洋硝子株式会社
- ・館山 美沙 / 北洋硝子株式会社

5 あけび蔓細工

- ・三上 徳仁 / 有限会社宮本工芸

9 南部花形組子

- ・館 功 / 館タテグ工芸

10 津軽竹籠

- ・三上 司

11 津軽傳統組子

- ・齊藤 正美 / 建具工芸・齊藤

12 こぎん刺し

- ・須藤 郁子 / 有限会社弘前こぎん研究所
- ・千葉 弘美 / 有限会社弘前こぎん研究所
- ・荒木 悅子 / 前田セツこぎん研究会
- ・工藤 夕子 / 三つ豆

13 南部菱刺し

- ・工藤 まさ / 西野刺し娘の会
- ・天羽 やよい
- ・中村 禮子 / 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
- ・中村 晃子 / 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA

- ・横井 充子 / 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
- ・高橋 博子
- ・山田 友子 / 南部菱刺研究会・つづれや

- ・北向 春枝

14 津軽裂織

- ・村上 あさ子 / テキスタイルスタジオ村上
- ・村上 始 / テキスタイルスタジオ村上
- ・倉内 尚子 / 裂き織り工房ポンテ
- ・葛西 やえ子

15 南部裂織

- ・井上 澄子 / 八戸南部裂織工房『澄』
- ・澤頭 ユミ子 / 南部裂織保存会
- ・松本 律子 / 下北南部裂織
- ・三橋 照勝 / 南部裂織七戸町保存会
- ・川原 和子 / ており工房みちのく
- ・三好 千佳 / さきおり CHICKA

16 津軽組ひも

- ・川口 良子 / 津軽組ひも工房
- ・佐藤 留美子 / 津軽組ひも工房

17 津軽打刃物

- ・三國 弘 / 三國刃物製作所
- ・三國 博英 / 三國刃物製作所
- ・田澤 幸三 / 田澤刃物製作所
- ・吉澤 俊寿 / 有限会社二唐刃物鍛造所
- ・三國 徹 / 三國打刃物店

18 錦石

- ・小田桐 吉津 / 小田桐錦石研究所
- ・須藤 伸之 / 須藤錦石加工所
- ・小田桐 道広 / 石小屋

19 きみがらスリッパ

- ・三畠 ヒロ子 / 十和田きみがらスリッパ生産組合
- ・古館 よしえ / 十和田きみがらスリッパ生産組合

20 八幡馬

- ・高橋 利典 / 株式会社八幡馬

21 下川原焼土人形

- ・阿保 正志

22 温湯こけし・ずぐり独楽

- ・盛 美津雄 / 津軽こけし工人会
- ・阿保 六知秀 / 津軽こけし工人会
- ・笹森 淳一 / 津軽こけし工人会
- ・阿保 正文 / 津軽こけし工人会

23 弘前こけし・木地玩具

- ・長谷川 健三 / 津軽藩ねぶた村

26 ねぶたハネット人形

- ・今井 陽子

29 津軽凧

- ・成田 幻節 / ねぶた・凧のなりた
- ・溝江 由樹 / 津軽藩ねぶた村
- ・高橋 勝良 / 高橋紋章染工場

31 五戸ばおり

- ・稻村 幸男

32 金魚ねぶた

- ・檜山 和大 / 津軽藩ねぶた村
- ・高橋 勝良 / 高橋紋章染工場
- ・成田 幻節 / ねぶた・凧のなりた

令和4年度に新たに認定された
4名の伝統工芸士にお話を聞きました。

[津軽凧] Tsugaru Kites

美の法則を尊重すればこそ粉本模写にこだわりたい



高橋 勝良さん TAKAHASHI Katsuyoshi

令和4年度認定

現在の活動と今後の抱負

高橋紋章染工場6代目として紋章や暖簾製作の傍ら、昭和53年吉谷津山に師事し、伝統的な材料や技法を用いた津軽凧の製造技術を学びました。

完成させた絵をはけて叩いて表と裏の紙を1枚にする裏打ちをして凧骨に貼る「後裏打ち」技法で、津軽凧の様式美を追究しています。和紙など使用する材料も伝統的に使用されていたものを使って製造しています。

令和元年には明治時代の技術や色彩を忠実に再現しながら、現存する最古の津軽凧製作手本「つしま粉本」の模写を完成させました。

地元の小中学生向けの出前授業で製作体験教室を行い、津軽凧の認知度向上も図っています。今後も伝統的な材料、技法を守りながら津軽凧を普及していきたいです。



[金魚ねぶた] "Kingyo" (Goldfish) "Neputa"

伝承とは、自己流の改変をしない事

高橋 勝良さん TAKAHASHI Katsuyoshi

令和4年度認定

現在の活動と今後の抱負

高橋紋章染工場6代目として紋章や暖簾製作の傍ら、昭和53年吉谷津山に師事し、竹や手漉和紙など伝統的な材料や技法を用いた金魚ねぶたの製造技術を学びました。

骨組では竹裏を表にして丸輪を作り面に節を目立たせない工夫や、「うろこ」部分の濃淡を鮮明に描くため「片羽ボカシ」技法を用いるなど、道具作りから成形、彩色など細部まで受け継いできた金魚ねぶたの作り方で製作しています。

平成31年には、金魚ねぶたの製作方法を執筆し、「弘前ねぶた本」へ寄稿を行いました。また、現在は初心者を対象とした製作講習会だけでなく、ねぶた製作経験がある中級者を対象した講習会を開催し、伝統を次へ伝える人材を育てています。



[金魚ねぶた] "Kingyo" (Goldfish) "Neputa"

伝統を守りつつ、時代に沿った作品作りに挑戦及び活動したい

成田 幻節さん NARITA Gensetsu

令和4年度認定

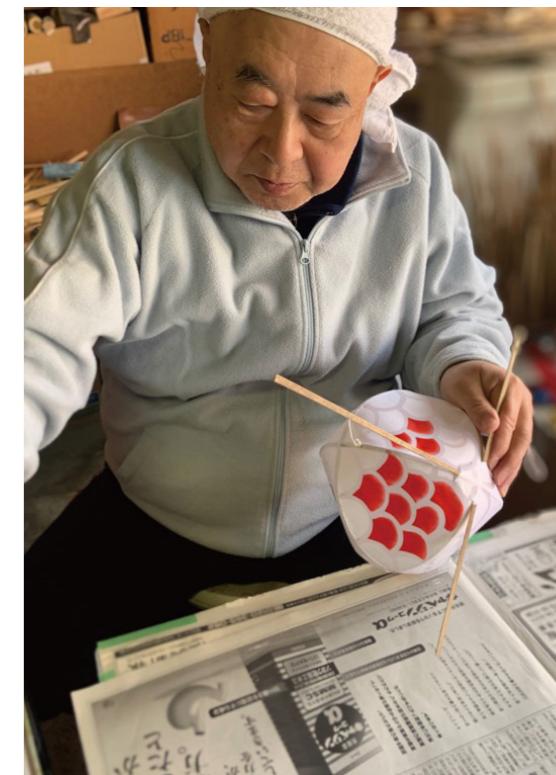
現在の活動と今後の抱負

ねぶたの製作をきっかけに、昭和58年から伝統材料や技法を用いた金魚ねぶた製作を請け負うようになりました。

針金を一切使用せず、ヤスリをかけた竹で成形するなめらか骨組や、顔、えら等の墨書き工程での左右対称の墨入れなど、型くずれしない丈夫で優美な金魚ねぶたの製作を心掛けています。また、金魚ねぶたの色は赤だけでなくピンクやオレンジといったカラフルな作品も製作もしています。

国内の物産展等での実演販売や、韓国や台湾、タイなど国外の物産展での実演販売も行い、金魚ねぶたの認知度向上に取り組んできました。また、地域の学校や子ども会などが実施する製作体験教室の講師も務めています。

今後も、多くの方に伝統工芸を知ってもらう活動に取り組みながら、お客様に喜んでいただける作品作りに挑戦していきたいです。



[こぎん刺し] "Kogin" Embroidery

厳しい風土ゆえ生み出された伝統模様の美で津軽の誇りを発信する

工藤 夕子さん KUDO Yuko

令和4年度認定

現在の活動と今後の抱負

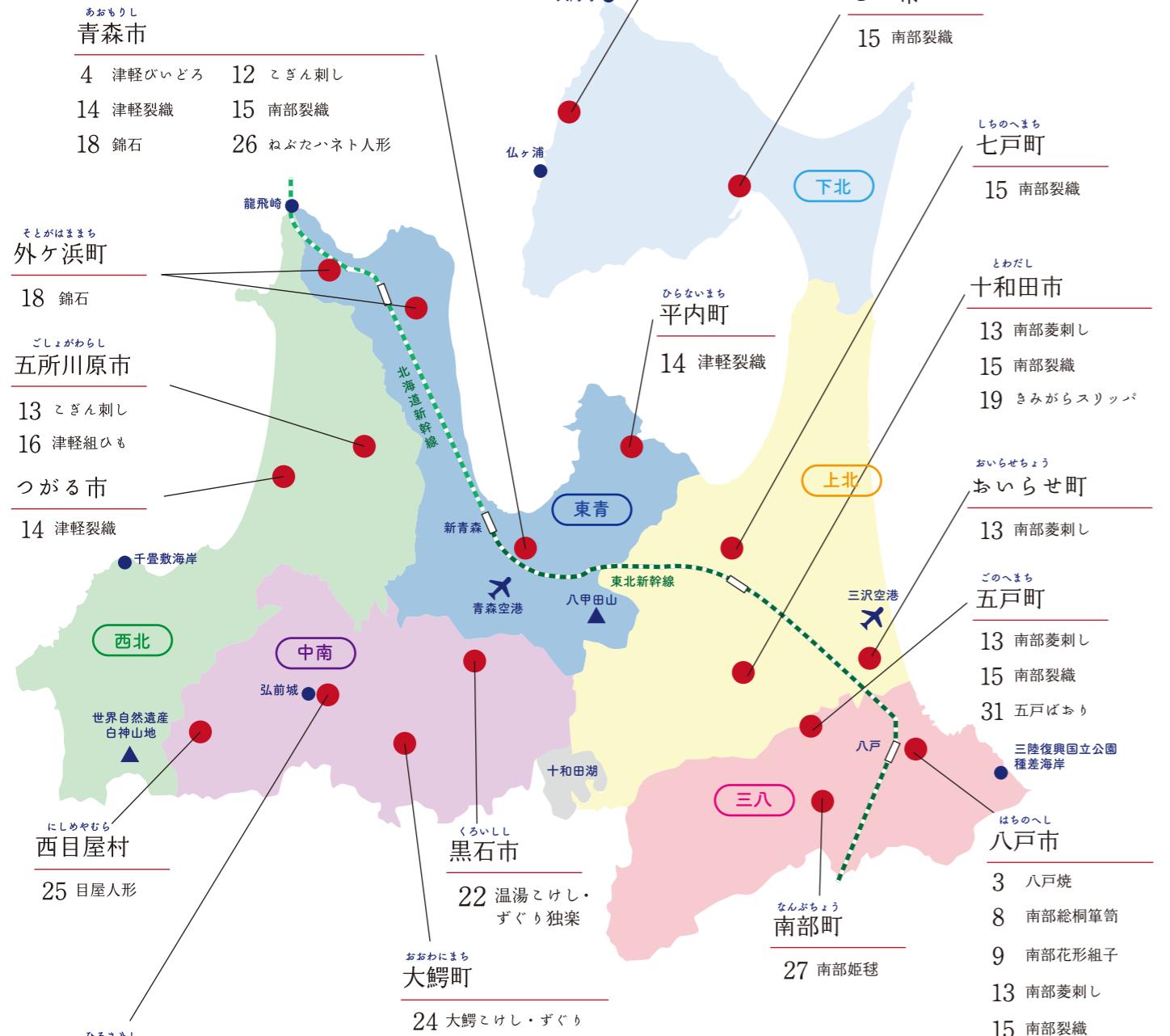
平成22年、母、伯母とともに「三つ豆」を立ち上げ、こぎん刺し商品の製作・販売を開始、現在は娘も刺し手となっています。

草木染糸を使用した現代生活に馴染む色使いと古作こぎんの伝統的な図案を融合させることで、伝統技術・技法を継承しつつ、若い消費者にも手にとっていただける商品の製作を心掛けています。

こぎん刺し教室を定期的に開催し、県外での個展や海外でのワークショップも開催して、こぎん刺しの知名度と魅力を更に高められるように努めています。今後は、市内にお店と工房を兼ねた刺し手も集える場所を作り、地元の人に地域に誇れる文化があることを発信していきたいです。



青森県伝統工芸品マップ



1 津軽塗

Tsugaru Lacquer Ware

漆器・陶器・ガラス



「津軽の馬鹿塗り」の異名をもつほど手間と時間をかけて丁寧につくられる逸品「津軽塗」



津軽塗はおよそ 300 年前の津軽藩四代藩主信政の時代に津軽藩召し抱えの塗師池田源兵衛によって始められたと伝えられている。江戸時代には津軽藩の保護・育成の下、主に藩の調度品として用いられた。明治初期に産業として確立後は人々に親しまれる愛玩品として幅広く使われている。

津軽塗の代表格である唐塗はヒバの素地から塗り・研ぎ・磨きを繰り返し、48 もの長い工程を経て完成される堅牢優美な塗物である。唐塗だけではなく七々子塗・紋紗塗・錦塗の伝統的な 4 つの技法が現在まで受け継がれている。さらに現代風のアレンジを加えて多彩な紋様を生み出すことができる。昭和 50 年に国の伝統的工芸品として産業指定。平成 29 年に重要無形文化財として技術指定され、津軽塗技術保存会が保持団体認定を受けた。

■ 主な製品 梵・重箱・テーブル・茶器・花器・盆・箸・飾棚

■ 主な製造工程 木地固め→布着せー地付け→仕掛け→彩色→荒研ぎ→炭はぎ→摺漆→艶付→上塗→完成

CONTACT

青森県漆器協同組合連合会

弘前市神田 2-4-9 ☎ 0172-35-3629

津軽塗技術保存会

弘前市賀田 1-1-1 ☎ 0172-82-1642

弘前津軽塗商工業協同組合

弘前市西大工町 82-1 ☎ 0172-35-4004

株式会社たなか銘産

弘前市大字田町 4-2-2 ☎ 0172-36-1111

津軽藩ねぶた村

弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511

3 八戸焼

Hachinohe Pottery

漆器・陶器・ガラス



青森の大自然を連想させる焼物「八戸焼」



八戸焼は、江戸時代末期まで八戸の山中で焼かれていた焼き物である。藩主御用達品であった津軽焼とは異なり、八戸焼は民窯（庶民の為の焼き物）として親しまれていたと言われている。

一時期廃れてしまった八戸焼だが、昭和 50 年渡辺昭山の手によって再興された。現在では八戸市内で採取した粘土に工夫を加え、百数十年前の八戸焼を再現している。

八戸焼の特徴は、独自の緑釉を使い、青森の自然を表現した「緑色」である。青森の豊かな自然を焼物から感じ取れる一品といえる。

■ 主な製品 花器・茶器・酒器・食器

■ 主な製造工程 成形→乾燥→素焼き→上ぐすり付け→本焼き→完成

CONTACT

渡辺 陶房

八戸市上野字上野平 33-6 ☎ 0178-23-4020

2 津軽焼

Tsugaru Pottery



津軽の風土を表すような素朴ながらも独特な味わいがある「津軽焼」



津軽焼の源流は津軽藩四代藩主信政によって集められた陶工たちが築いた平清水焼・大沢焼・下川原焼・悪戸焼である。藩政時代には主として津軽藩の調度品や日用雑器が焼かれていた。

しかし明治に入り鉄道の開通に伴って流入した他県の焼物に押された結果、大正時代には一時途絶えてしまう。現在の津軽焼は昭和に入って再興したものである。

現在の津軽焼は地元の土の味を生かし、釉薬に黒天目釉やりんごの木灰を原料とするりんご釉を使うものが主流になっている。このようにして作られる津軽焼は風土の特徴が生かされた素朴な色合いが魅力的な焼物である。

■ 主な製品 茶器・花器・酒器・皿類

■ 主な製造工程 土練り→成形→加工→乾燥→素焼き→下絵付け→施釉→本焼き（焼成）→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村

弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511

ひろの窯

弘前市広野 2-3-5 ☎ 0172-87-0211

高野陶房

弘前市清水森字沼田 16-3 ☎ 0172-87-5844

津軽千代造窯

弘前市城南 4-11-3 ☎ 0172-32-8465

4 津軽びいどろ

Tsugaru Glassware



青森の移りゆく四季を色とりどりの表情で魅せる「津軽びいどろ」



津軽びいどろは陸奥湾近辺で作られていた漁業用浮玉の製法を応用して作られるようになったガラス工芸品である。津軽半島の西側にある七里長浜の砂を材料に、古来からある難易度が高い「宙吹き」の技法を用いて生み出されたのが始まりである。

1500 度の高温で材料を溶解し、成形温度 1200 度という灼熱の中で真っ赤に溶けたガラスは、吹き棹に巻き取られ職人に息を吹き込まれることによって、豊かな色合いを持った工芸品に姿を変える。現在では従来の緑色だけでなくピンク・赤・黄・白などカラフルで実用的な商品を作られている。

■ 主な製品 花瓶・冷酒用徳利・盃・タンブラー

■ 主な製造工程 材料調合→溶解→成形→徐冷→仕上げ→完成

CONTACT

北洋硝子株式会社 青森市富田 4-29-13 ☎ 017-782-5183

5 あけび蔓細工

"Akebi" Vine Crafts

木・竹工品



丹念に編み込まれ、丈夫で使うほどになじむ「あけび蔓細工」



あけび蔓細工は江戸時代の末に岩木山麓の嶽（だけ）温泉で、湯治客への土産品として、付近の山々に自生するあけび蔓を原料とし、炭籠・手提げ籠などが広く作られるようになった。明治以降には内外の展覧会をはじめ、広く海外へも市場が広がった。全行程を手作業で行い、時間と手間暇をかけて丹念に仕上げられているため、あけび蔓細工のもつ色合い、野趣豊かな手触り、基本的な並編みや中が透けて見えるこだし編みなどの多彩な編み模様は、落ち着きと自然の温かさを感じさせる。また、耐久性に優れ、使うほどに滑らかさと艶で出てくるため末永く楽しめる一品である。

■ 主な製品 手提げ籠・盆・ざる

■ 主な製造工程 蔓の選定→陰干し乾燥→水に浸す→節取り→底編み→胴編み→縁編み→手付け→端切り→仕上げ→完成

CONTACT

有限会社宮本工芸 弘前市南横町7 ☎ 0172-32-0796

6 ブナコ

BUNACO

木・竹工品



独自のユニークな製法で変幻自在に姿を変えることができる「ブナコ」



ブナコは、昭和30年代に青森県工業試験場で試作、研究の結果考案された木工品である。日本一の蓄積量を誇る青森県のブナを有効に活用するため、水を多く吸い込むブナの特徴を最大限に生かし、薄いテープ状にして螺旋状に巻き立体の物を形作ることで、材料となる木材を無駄なく使うことができる。従来の木工品にはないような形状も表現することができ、ひとつひとつが丁寧に手作りされている。

現在では食器用品だけではなく、ランプやスピーカーなど、デザイン性の高いインテリア用品にもその技術は応用されている。

■ 主な製品 食器・ランプ・スピーカー・ティッシュボックス・ダストボックス

■ 主な製造工程 材料ひき割り→底板加工→巻き→型上げ→接着→木地調整→下塗り塗装→仕上げ塗装→完成

CONTACT

ブナコ株式会社 弘前市豊原1-5-4 ☎ 0172-34-8715

7 津軽桐下駄

Tsugaru paulownia "Geta"
(Wooden Clogs)

木・竹工品



厳しい風雪の中で育まれ、木質が堅く木目も美しい「津軽桐下駄」



■ 主な製品 白木下駄・雪下駄・津軽塗下駄

■ 主な製造工程 桐の切断→自然乾燥→輪切り→木取り→あいだひき→あらしき→おがみつき→わきかんな→すみつけ→はなまわし→はなあけ→つらがけ→とくさがけ→完成

CONTACT

阿保下駄製作所 弘前市城東北3-8-20 ☎ 0172-26-1588

木・竹工品



8 南部総桐箪笥

Nambu Paulownia Chest

職人技が映える美しい桐の杢目が醸し出す気品あふれる「南部総桐箪笥」



■ 主な製品 総桐箪笥・小箪笥・机・収納箱

■ 主な製造工程 木釘作り→造材→乾燥→木取り→狂い直し→板接ぎ→組立加工→仕上げ・着色→完成

CONTACT

在家 福治 八戸市河原木字前谷地118-3 ☎ 0178-27-5965

木・竹工品



9 南部花形組子

Nambu Floral "Kumiko" Woodworking

高度に熟練した技術が芸術的な曲線美を生む「南部花形組子」



■ 主な製品 ティッシュボックス・電気スタンド・行灯・衝立など

■ 主な製造工程 小割→引割→寸法の割り出し→削り→仕上げ→組立て→完成

CONTACT

館タテグ工芸 八戸市小中野5-10-31 ☎ 0178-24-5438

10 津軽竹籠

Tsugaru Bamboo Baskets

木・竹工品



りんご畑から生まれた丈夫で軽く実用性の高い「津軽竹籠」



竹籠を作る技術は約 200 年前に遡るが、今日のように多量に生産されるようになったのは、津軽地方がりんごの産地として定着し、作業用の手籠が作られるようになってからである。

岩木山麓や八甲田山麓で採取される丈夫で耐久性に優れた根曲竹を用いて作られる津軽竹細工は、他産地の竹製品とは異なり、六角目などの大まかな編み目で、しなやかさ、軽さと丈夫さが特徴である。

現在では丸碗かごや果物皿など大きさや用途に応じて様々な商品が作られている。

木・竹工品

■ 主な製品 りんご手籠・野菜籠・椀籠・果物籠

■ 主な製造工程 竹採取→四つ割→編み→完成

CONTACT

三上 司 弘前市大字八幡字古喜田 51-4 ☎ 0172-82-3054

11 津軽傳統組子

Tsugaru traditional "Kumiko" Woodworking

木・竹工品



直線的なパーツの繊細な組合せによる幻想的な立体美「津軽傳統組子」



津軽傳統組子は、飛鳥時代から約 1300 年以上続く建築物の装飾として受け継がれている組子の一種である。

細く挽いた木に溝や穴、ホゾを彫り、直線的ないくつものパーツを組み合わせることで、立体的に複雑な幾何学模様を描くことが、津軽傳統組子の特長である。

その技法は籠のような模様を表現する「目潰し本籠目」、木材を縦横互いに組み付ける「本捻組」、三角形を複合し六角形の亀甲模様を織りなす「亀甲組子」など多岐にわたり、屋内装飾、行燈、衝立、屏風、球体のランプシェード、バッグなど幅広い製品を作り出すことができる。

■ 主な製品 行灯、衝立、屏風、欄間、化粧組子

■ 主な製造工程 切断→見込み→寸法の割出→見付仕上げ→切り出し→組立→表面仕上げ→完成

CONTACT

建具工芸・齊藤 弘前市大字高屋字本宮 663-2 ☎ 0172-82-5200

12 こぎん刺し

"Kogin" Embroidery

染織品・繊維製品

厳しい北国の自然の中で生きてきた女性の知恵の産物「こぎん刺し」



江戸時代、津軽の農民は木綿の衣料を着ることが許されていなかった。そのため麻地の着物を何枚も重ね着して寒さをしのいでいた。そこで農村の女性たちは保温と補強のために、麻の布地の要所要所に木綿で刺子を施した。こうして生み出されたこぎん刺しは、厳しい北国の自然の中で生きてきた女性の知恵の産物である。

こぎん刺しの特徴は、藍染の麻地に白い木綿糸で縦の織り目に対して奇数の目を数えて手刺しすることで、素朴で美しい幾何学模様が生み出されるところにある。また今日では用途によって木綿地やウール地なども用いられており、色彩も時代を経て多彩さを増している。

■ 主な製品 巾着・帯・バッグ・ネクタイ

■ 主な製造工程 糸より一麻地染め一生地織り一生地を整える→裁断→刺し→仕上げ→加工→完成

CONTACT

前田セツこぎん研究会 青森市安方 1-1-40-2F ☎ 017-735-5311

有限会社弘前こぎん研究所 弘前市在府町 61 ☎ 0172-32-0595

岩木かちやらず会

弘前市鳥井野字長田 60-6 ☎ 0172-82-5109

三つ豆

五所川原市中央 3-118 ☎ 090-2846-0076

CONTACT

建具工芸・齊藤 弘前市大字高屋字本宮 663-2 ☎ 0172-82-5200

13 南部菱刺し

Nambu Diamond Embroidery

染織品・繊維製品

ウメノハナ・クルミなどの多彩な幾何学紋様が美しい「南部菱刺し」



江戸時代、八戸を中心とする南部地方で南部菱刺しが生み出された。当時の農民たちは麻や苧麻の着物しか着ることを許されておらず、木綿は糸として使用するものと決められていた。そこで農村の女性たちは補強と保温のために麻に木綿糸を刺して、厳しい北国の生活をしのいでいた。この技術が現在まで受け継がれている。

菱刺しの特徴は麻布に綿糸で偶数目を拾って織り成されるウメノハナ・キジノアシなどの横に長い菱型の多彩な幾何学紋様である。

現在では麻地以外に木綿地やウール地も用いられ、ネクタイやタペストリーなど新たな製品にもその技術は応用されている。

■ 主な製品 卓布・前垂れ・のれん・バッグ

■ 主な製造工程 麻地の地直し→紋様のデザイン→刺し→仕上げ→完成

CONTACT

天羽 やよい 八戸市長者 4-2-26-11 ☎ 0178-46-4662

南部菱刺し 八戸市長苗代字内舟渡 25-1 ☎ 0178-28-2886

西野刺しの会 八戸市白銀町字人形沢 6 ☎ 080-2802-0715

南部菱刺し工房アトリエ縫 HANADA 八戸市大字田面木字上野平 91-7 ☎ 090-3532-4855

南部ひしがし保存会 十和田市東一番町 8-10 ☎ 0176-23-0024

高橋 博子 五戸町字古館 1-7 ☎ 090-9531-4203

北向 春枝 おいらせ町中下田 147-12 ☎ 0178-56-4107

染織品・繊維製品



14 津軽裂織

Tsugaru Weaving

染織品・繊維製品

独特の手ざわりと深みのある色合いが美しい「津軽裂織」



津軽では裂織を「サクリ」と呼ぶ。江戸中期以降津軽の海岸線地域では日本海交易の北前船により古手木綿が普及し、布を裂いて織るサクリが漁師・農民の仕事着や日常着として作られた。

サクリはその用途から薄く柔らかく仕上がるよう工夫された技法で織られ、真新しいサクリは晴れ着として男たちや女たちを飾り、雪国の寒さから人々を守った。

裂かれた布のささくれた風合いが独特の手ざわりを生み、古着の色の組み合わせによる時を経た深みのある色合いが魅力となっている。現在では、絹布をブナやナラ、りんごなどで染めて横糸にした綴れ織り・綾織りなどの技法を使ったバッグのほかコートなど様々な商品がある。

主な製品

卓布・バッグ・コート

主な製造工程

デザイン及び設計→機ごしらえ→裂布を作る→製織→仕上げ→完成

CONTACT

テキスタイルスタジオ村上・青森手織サクリ会 青森市高田朝日山 809-256 ☎ 017-739-7761

裂き織り工房ポンテ

葛西 やえ子



15 南部裂織

Nambu Weaving



古布を再生し新しい命を吹き込む「南部裂織」



南部裂織は江戸時代に着古した着物や布を再生する機織りの一技法として生まれた織物である。当時は、寒冷な気候のために綿の栽培は難しく、北前船で運ばれた木綿や古手木綿はとても貴重な存在であった。そのため、厳しい生活を強いられた農村地方の女性たちが布を大切にするための知恵から生まれたものである。細く裂いた布を横糸に、木綿糸を縦糸にして地機で織った裂織は丈夫で暖かく、そのカラフルな色移りと複雑な機上げが特徴である。

主としてこたつ掛けや帯などに用いられてきたが、現在ではテーブルカバーをはじめ現代感覚の手織物にも応用されている。

主な製品

卓布・手提げ袋・こたつ掛け

主な製造工程

整経→簇（おさ）通し→男巻き（おまき）→綾越し→糸綜統作り→元寄せ→機上げ→製織→完成

CONTACT

さきおり CHICKA

青森市安方 1-1-40 青森県観光物産館 2階
machicotoba 内 ☎ 090-4886-3801

八戸南部裂織工房『澄』
百彩工房（ももいろこうぼう）

八戸市江陽 1-28-6 ☎ 0178-24-5045

ており工房みちのく

八戸市新井田木沢 6-5 ☎ 0178-25-1653

南部裂織保存会

八戸市大字河原木字袖ノ沢 2-80 ☎ 0178-28-5818

下北南部裂織

むつ市田名部下道 4 むづグランドホテル裂織館
☎ 0175-22-2464



16 津軽組ひも

Tsugaru "Kumihimo" (Braiding)

染織品・繊維製品



青森の風土を感じる優しい色合いと高度な組み技術が融合した「津軽組ひも」



縄文土器の縄目模様からもわかるように、組み・編みの歴史は古い。

青森では津軽五所川原近郊の生活必需品であった藁工芸品にその歴史を見ることができる。特異な気候風土の中で生活する人々の知恵と創造と美意識が生んだ藁工芸品。藁工芸品には簡単な三つ組みから、高度な技術の笹浪組みまで取り入れられている。

この藁工芸品の編み方を応用し、りんごや藍などの草木染めを取り入れて津軽の命を吹き込み、津軽組ひもが誕生した。帯締めをはじめアクセサリーなどにも広く活用されている。

主な製品

帯締め・ブローチ・ネックレス・慶弔結び

主な製造工程

糸割り→染色→糸縫い→経尺→玉つけ→組みあげ→仕上げ→完成

CONTACT

津軽組ひも工房 五所川原市金木町菅原 240-17 ☎ 0173-53-3722

17 津軽打刃物

Tsugaru Handcrafted Knives



優れた切れ味と耐久性をもつ実用的な「津軽打刃物」



鍛冶は古より刀鍛冶・農具鍛冶・鉄砲鍛冶と分かれていた。近世になって包丁鍛冶が出てきたが、一般には農具・工具や包丁・鋏などを生産していた。

鍛冶町という町名が示すとおり、藩政時代には弘前でも多くの鍛冶屋が軒を連ね農具や武器を製造していた。現在でも伝統的な技能を受け継いだ職人たちが刃物を中心に作り続けている。

伝統的な「火造り」「泥塗り」などの焼き入れ技術により、優れた切れ味と耐久性をもつ品質の高い包丁類が作られている。また、りんごの産地である津軽には欠くことのできない摘果・枝切り用の剪定鋏も作られている。

主な製品

和包丁・剪定鋏・鉈・鎌

主な製造工程

火造り→荒仕上げ→焼き入れ→焼きもどし→刃付け→仕上げ→柄付け→完成

CONTACT

三國刃物製作所 弘前市金属町 4-15 ☎ 0172-88-0555 ※FAXも同様
田澤刃物製作所 弘前市茂森新町 2-3-11 ☎ 0172-32-1087

有限会社二唐刃物鍛造所 弘前市金属町 4-1 ☎ 0172-88-2881
三國打刃物店 弘前市茂森町 170-3 ☎ 0172-33-2202



18 錦石

"Nishiki" Stone Products

諸工芸品

磨きぬかれた光沢が美しい津軽石「錦石」



「陸奥の錦石」として名高い青森の錦石は、碧玉、めのう、玉髓などの石英に各種金属イオンが混入したことにより、複雑で格調のある色彩が交錯したものである。錦石は津軽半島周辺などで採取される天然石で、磨くと光沢とともに美しい色彩や紋様が現れる。

錦石は古くからその美しさが人々に愛されつづけ、縄文時代には「勾玉」に加工されたり、室町時代には「舍利石」として尊ばれ、遠く唐・天竺まで輸出されたり、江戸時代には津軽玉と称されてかんざしなどの装飾品として珍重されてきた。

現在では鑑賞用の美石のほか、指輪、ネックレスなどの装飾具としても広く活用されている。

■ 主な製品 美石・指輪・ネクタイピン

■ 主な製造工程 石の選別→大割り→小割り→型取り→研磨→洗浄→完成

CONTACT

小田桐錦石研究所 青森市西滝 3-19-27 ☎ 017-781-2347

石小屋 青森市石江字江渡 106-67 ☎ 017-781-5338

須藤錦石加工所 弘前市大字紺屋町 13-3 ☎ 0172-32-6103

えびす錦石店 外ヶ浜町字蟹田鰐ヶ淵 20-1 ☎ 0174-22-2114

19 きみがらスリッパ

"Kimigara"(Corn Husk) Slippers

諸工芸品



カラフルかつ機能性の高さが人気の「きみがらスリッパ」



青森県の方言で、とうもろこしは「きみ」と呼ばれる。きみがらスリッパは、自然乾燥させた「きみ」の「から」、つまりとうもろこしの皮から作っている。かつて馬産地だった十和田地方は、飼料用とうもろこし「デントコーン」の栽培がとても盛んで、大量に発生する「きみがら」の再利用のために、昭和 20 年代の初めごろから作られるようになった。

履き心地がよく、夏はサラリと涼しく冬はあたたかいのが特徴。また、軽くて丈夫なうえ、通気性もよい。そのため主にスリッパや草履として重宝されている。また原色の染色ができるところから、彩り鮮やかな配色も可能である。

■ 主な製品 スリッパ・状差し・インテリア用小物

■ 主な製造工程 皮の選別→乾燥→縄縫い→皮の染色→乾燥→皮裂き→編み込み→仕上げ→完成

CONTACT

十和田きみがらスリッパ生産組合 十和田市伝法寺平塙 37-2 ☎ 0176-28-3611

20 八幡馬

"Yawata" Horses

諸工芸品

日本三駒に数えられる櫛引八幡宮の御神馬「八幡馬」



日本三駒の一つとしても数えられ、青森県南部地方の代表的な郷土玩具・民芸品である。

古来、南部地方の一宮・櫛引八幡宮の境内馬場では「流鏑馬(やぶさめ)」が行われ、地方の優れた馬が奉納されていた。その姿を模して作った木彫り馬がそもそも始まり。櫛引八幡宮の例大祭で参拝者のお土産として売られるようになり、人々はその地名より「八幡馬」と呼ぶようになる。

明治以降、社会や生活環境の変化に伴い、作り手や産地、形状や木彫り馬の意味も変化しながら、郷土玩具としての形が定着する頃には、親子馬、嫁入道中の盛装馬の模様など、子供や家族の幸せを願う愛情溢れる民芸品となる。現在では結婚、新築、開業、出産、落成など各種お祝い事の記念品・贈答品として喜ばれている。

■ 主な製品 八幡馬

■ 主な製造工程 木取り→削り→下塗り→加飾・絵付→毛すげ→完成

CONTACT

株式会社八幡馬 八戸市沼館 2-5-2 ☎ 0178-22-5729

19 きみがらスリッパ

"Kimigara"(Corn Husk) Slippers

諸工芸品



カラフルかつ機能性の高さが人気の「きみがらスリッパ」



青森県の方言で、とうもろこしは「きみ」と呼ばれる。きみがらスリッパは、自然乾燥させた「きみ」の「から」、つまりとうもろこしの皮から作っている。かつて馬産地だった十和田地方は、飼料用とうもろこし「デントコーン」の栽培がとても盛んで、大量に発生する「きみがら」の再利用のために、昭和 20 年代の初めごろから作られるようになった。

履き心地がよく、夏はサラリと涼しく冬はあたたかいのが特徴。また、軽くて丈夫なうえ、通気性もよい。そのため主にスリッパや草履として重宝されている。また原色の染色ができるところから、彩り鮮やかな配色も可能である。

■ 主な製品 スリッパ・状差し・インテリア用小物

■ 主な製造工程 皮の選別→乾燥→縄縫い→皮の染色→乾燥→皮裂き→編み込み→仕上げ→完成

CONTACT

十和田きみがらスリッパ生産組合 十和田市伝法寺平塙 37-2 ☎ 0176-28-3611

21 下川原焼土人形

"Shitakawara" Pottery's Earthenware Dolls

諸工芸品

素朴で温かみがある鳩笛が優しい音色を奏でる「下川原焼土人形」



下川原焼土人形は江戸時代の後半に九州筑前で陶磁器作りを習得してきた初代高谷金蔵が、津軽藩に抱えられて下川原に窯を築いたのが始まりである。

明治時代の土人形人気による隆盛、ブリキなど新しい玩具の普及に押された大正時代の衰退という浮き沈みを経て、現在まで受け継がれている。

下川原焼土人形は赤土と砂を調合した粘土を石膏の型枠にはめて形を整え、約 800 度の高温で数時間窯焼きし、最後に色つけをして出来上がる。

鳩笛や干支人形が有名であるが、実際人形の種類は数百も存在する。その素朴な形と穏やかな表情によって淡い郷愁がかきたてられる。

■ 主な製品 土人形・鳩笛・人形笛

■ 主な製造工程 粘土の調合→型ぬき→乾燥→素焼→地塗り→彩色→完成

CONTACT

高谷下川原焼土人形製陶所 弘前市桔梗野 1-20-8 ☎ 0172-32-6888

阿保 正志 弘前市新里字上樋田 85-2 ☎ 0172-27-3766

22 溫湯こけし・ずぐり独楽

"Nuruyu" Kokeshi Dolls
and "Zuguri" Tops

曲線美豊かな津軽系こけしの祖「温湯こけし」、雪の上でも回る津軽地方の伝統独楽「ずぐり」



津軽系こけしの発祥地である黒石市温湯温泉。大正時代の初めに、津軽系こけしの創始者である盛秀太郎がこけしを作り始め、現在はこけし工人が集まって「津軽こけし工人会」を結成し、伝統と新しさを見据えたこけし作りが続けられている。胴に描かれるアイヌ模様、眉を吊り上げてにらみをきかせる顔、すそ広で膨らんだ胸と極端な腰のくびれなどが、温湯こけしならではの特徴である。また胴体には、津軽藩の家紋から取り入れたといわれる牡丹の花も使われている。ずぐり独楽は温湯こけしの製作が始まる前より製作が始まったとされ、津軽地方では冬のずぐり遊び文化が今も残っている。

■主な製品 こけし・ダルマ・ずぐり独楽

■主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽こけし工人会 黒石市袋宇富山 72-1 ☎ 0172-54-8181
事務局：津軽こけし館

25 目屋人形

"Meya" Dolls

愛らしい絢姿の目屋乙女「目屋人形」



■主な製品 目屋人形

■主な製造工程 築作り→衣装作り→胴体作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

目屋人形製作部会 西目屋村田代字稻元 143 ☎ 0172-85-2828

23 弘前こけし・木地玩具

"Hirosaki" Kokeshi Dolls
and Traditional Wooden Crafts

可憐で愛らしい「弘前こけし」、なつかしさの中に工夫を重ねた「木地玩具」



東北地方の工芸品である伝統こけしは 11 系統に分類される。その中の一つ、津軽系こけしは、主に 1 本の木から作られる“作りつけ”という技法で作られ、髪型はオカッパ頭という特徴を持ち、黒石市、大鰐町、弘前市で作られるこけしの総称である。

明治時代から津軽地方内の木地師及び津軽と他県の木地師との交流が盛んに行われる中で、弘前こけしは津軽系こけしの中でも大鰐系の流れをくむものとして現在まで受け継がれている。

またこの地域ではこけし作りとともにこまやダルマなどの木地玩具も盛んに作られ、地域の人々に愛されている。

■主な製品 こけし・こま・ダルマ

■主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村 弘前市龜甲町 61 ☎ 0172-39-1511

24 大鰐こけし・ずぐり

"Owani" Kokeshi Dolls
and "Zuguri"

素朴な中にも華やぎのある「大鰐こけし」、色彩が美しい「ずぐり」



大鰐こけしは明治初期に温湯温泉津軽系こけしの発祥地である温湯温泉から大鰐温泉に移り住んで木地挽きを始めたこけし職人たちが、大正時代になってこけしを作りだしたのが始まりである。

大鰐こけしの特徴は、張りぎみの肩からまっすぐに伸びる胴体と、そこに描かれるあやめ模様にある。あどけない笑みを浮かべるその表情は、見る者に素朴な温かみを感じさせる。

ずぐりは色彩豊かな独楽であり、雪国の子供たちの玩具として親しまれている。

■主な製品 こけし・ずぐり

■主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

嶋津 誠一 黒石市袋富山 65-1(津軽伝承館) ☎ 0172-48-2525

26 ねぶたハネト人形

Nebuta Haneto Dolls

今にも動きだしそうな躍動感あふれる人形「ねぶたハネト人形」



■主な製品 ねぶたハネト人形

■主な製造工程 笠編み→胴体作り→顔作り→衣装作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

今井 陽子 青森市南佃 1-16-6 ☎ 017-742-6459

27 南部姫毬

Nambu Hime Mari (Princess Ball)

まるで平安朝の十二单を身にまとった姫のような「南部姫毬」



■主な製品 姫毬

■主な製造工程 芯作り→芯の下巻→芯の上巻→割り出し→割り糸→模様かがり→彩色→飾り房付け→完成

CONTACT

南部姫毬製作所 南部町杉沢字久保頭 24-1 ☎ 080-3332-6006

28 えんぶり鳥帽子

"Enburi" Festival Hats

長い冬の終わりを告げ春を呼ぶ祭りの象徴「えんぶり鳥帽子」



春を呼ぶ祭り「えんぶり」は、明治時代以降に八戸地方で民俗芸能として定着した豊年満作を祈る「田遊び」と呼ばれる神への祈願行事である。太夫と呼ばれる舞い手が、えぶりといふ農具を手に、田の土をかきならす所作をする。その太夫がかぶる鶴、亀、松、竹、梅、えびす、大黒などのおめでたい図柄で飾られた鳥帽子が、えんぶり鳥帽子である。古来より太夫が一心不乱に舞い続けるとき、その鳥帽子には神が宿り太夫はまさに神の化身になるとされている。よってえんぶり鳥帽子はいわば農神の象徴として、太夫によって丁重に扱われている。

■主な製品 えんぶり鳥帽子

■主な製造工程 下張り成型→絵柄の素描→色付け→たてがみ付け→前髪付け→彩飾→完成

CONTACT

小坂 勝義 八戸市長根 4-14-3 ☎ 0178-43-9327



29 津軽凧

Tsugaru Kites



勇壮な武者が舞う津軽の伝統的な凧「津軽凧」



津軽凧は窮した藩士の内職として江戸時代から作られるようになった。通常凧は竹を使って作るが、津軽地方では寒さで竹がなかなか育たない環境だった。そのため凧の骨に、軽くて弾力性に富むヒバ材を薄く削って用いるようになった。

凧絵は、三国志や水滸伝などに登場する英雄・豪傑のほか、日本の歴史上の武将を題材とした勇壮な武者絵が多く描かれる。太く力強い墨の線と赤を基調とした鮮やかな色彩で描き出される武者は、弘前ねぶたながらに見る者をひきつける。

■主な製品 凧

■主な製造工程 骨組の木取り→組立→墨書き→裏打ち→彩色→仕上げ→骨張り付け→縁紙張り付け→糸目付け→enzu作り→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511
ねぶた・凧のなりた 弘前市石渡 2-4-13 ☎ 0172-34-4960
高橋紋章染工場 弘前市田町 2-1-21 ☎ 0172-32-0793



30 太鼓

"Taiko" (Drums)



武者魂を奮い起こす勇壮な音を響かせる「太鼓」



太鼓は津軽地方の祭りであるねぶたには欠かせないものであり、藩政時代から現在まで受け継がれてきた。津軽の太鼓は弘前の工芸品である桶を用い、胴に馬や牛の皮張りをして作られる。

太鼓の生命ともいふべき皮の部分は、毛の処理・なめし・乾燥・皮張りと全工程手作業で行われている。特に厚さ 2 ミリメートルに皮を削る作業は伝統の手技である。

現在は青森の短い夏に迫力を添えるばかりでなく、楽器や神事用として広く全国各地に出荷されている。

■主な製品 桶太鼓・長胴太鼓・附締太鼓

■主な製造工程 原皮塩抜→原皮の油及び肉の除去→原皮毛抜→皮の乾燥→皮の削り→皮張り→皮縁塗装→桶胴塗装→ひも染め→組立→完成

CONTACT

塩谷太鼓店 弘前市南大町 2-1-3 ☎ 0172-32-9556

31 五戸ばおり

Gonohe "Baori" (straw hat)

独特の曲線が美しく実用性の高い「五戸ばおり」



五戸ばおりは江戸時代末期に考案された編み笠の一種で、軽く丈夫なことから農作業などに利用されていた。

イ草の特徴である「水分を含むと網目は閉まり、雨を通さない」性質を活かし、重宝されていた。昭和 40 年代ごろに安い麦わら帽子などの普及により需要が減ったため、職人の数も少なくなったが、技術は現在に伝えられている。

すべてを手作業で丁寧に作り上げ、つばのふちに細い竹の芯を入れて整える独特のカーブは、見た目が美しいだけでなく視界を確保する実用性も兼ね備えている。

CONTACT

稻村 幸男 五戸町宇新蔵長根 24-7 ☎ 0178-62-3423



32 金魚ねぷた

"Kingyo" (Goldfish) "Neputa"

津軽の祭りに欠かすことのできない夏の風物詩「金魚ねぷた」



弘前ねぷたは、1722(享保 7)年に初めて文献に登場して以来、様々な形のねぷたが時代を彩ってきた。江戸時代、金魚は一部の上流階級の間でしか飼うことのできなかった高級魚であった。庶民は憧れを抱き、それをねぷたにして子供たちに祭りの時、提灯のように持たせ練り歩いたとされる。「金魚」はその名の通り金運をもたらし幸福を呼ぶ縁起物として長きに亘り、廃れずに今現在も市民に親しまれている馴染み深い工芸品である。近年では、祭りのみならずインテリア装飾やお土産としても人気を集めている。また、様々なバリエーションの金魚ねぷたが製作され、伝統工芸の新たな発展と話題作りにも努めている。

CONTACT

津軽藩ねぶた村 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511
ねぶた・凧のなりた 弘前市石渡 2-4-13 ☎ 0172-34-4960
高橋紋章染工場 弘前市田町 2-1-21 ☎ 0172-32-0793



伝統工芸品の海外展開

青森県では平成30年度から、本県工芸品の認知度向上や商談会機会を創出し、海外への販路開拓に積極的に取り組んでいます。

フランス・パリの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展（令和3年度）

例年1月にパリで開催されている国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」が新型コロナウイルス感染症拡大による会期変更で3月に実施され、県内工芸品事業者6者が参加しました。顧客ニーズに合わせてブラッシュアップしたブナコやこぎん刺し、津軽びいどろなどの商品を展示し、本県工芸品などのPR及び海外バイヤーとの商談を行いました。“古来より「Re」の精神を育んできた青森の地で作られた工芸品を通して人間らしい生活を取り戻す”というスローガンにもとづく商品は多くの来場者から共感を得ることができ、サステイナブルな商品の魅力を発信することができました。



フランス・パリでの展示商談会開催（令和2年度）

例年1月にパリで開催されている国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」が新型コロナウイルス感染症拡大によりデジタル展に移行したことから、バイヤーとのネットワークを作り販路開拓を図るため、パリ市内のギャラリー店舗において、「Re」をテーマとして、国際見本市に出展予定だった県内6事業者の展示商談会を開催し、リモート商談を実施しました。

縄文の昔から、自然と人間の共生が「Re」の好循環により持続し、今もその精神が根付いている青森県の工芸品を現地のバイヤー等に紹介し、バイヤーネットワークを構築する良い機会となりました。



国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」（フランス・パリ）に展示した商品の一部をご紹介します。



ブナコ株式会社

世界自然遺産に登録されている白神のブナ原生林がある青森県は、日本一のブナの蓄積量を誇っています。そこでブナを活用した附加価値の高いものを作りだそうと考案されたのがブナコです。テーブル状にしたブナ材をコイルのように巻き、押し出して成型するというブナコ独自の製法により、テーブルウェアやランプ等の独特的な美しさとぬくもりが感じられる製品を提供しています。



北洋硝子株式会社

漁業用の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を活用して生み出された、青森の自然をイメージしたハンドメイドガラス「津軽びいどろ」を製作しています。職人たちちは、新たな技法の習得や美しい色ガラスの調合など、常に新しい技術の習得へのたゆみない努力を続け、現在では、多様な技術・技法、獨自で調合する世界的にも類を見ない色数を活かしたガラス製品となっています。



有限会社弘前こぎん研究所

北国の寒さ厳しい風土の中、青森県津軽地方の農家の女性たちが生み出したこぎん刺しという技法を活用したインテリア製品を製作しています。こぎん刺しは、ただ布を補強するだけでなく、そこに様々な模様を生み出しながら発展し、現在では濃紺の麻布に真っ白な木綿糸で刺す伝統的なスタイルから、カラフルな色使いまで、現代の生活に馴染む商品となっています。



有限会社木村木品製作所

りんごの生産量では市のレベルで世界一の青森県弘前市で、今年で創業49年となる木工所です。私達は、様々な理由から薪以外には活用出来ず、毎年廃棄処分されているりんごの木を活用し、これまで培ってきた日本伝統の木工技術を使いながら、りんごの木の木目色目の美しさや肌触りの良さを活かした木工商品を製作しています。



有限会社二唐刃物製造所

津軽藩より作刀を拝命して以来350年の伝統を持つ鍛造所です。受け継いだ技術を応用し、現在ではコレクション需要もある海外向けに、特殊な厚手鋼材を加工する製法により他社では作れない複雑な紋様を浮かび上がらせた包丁「暗紋」シリーズに注力しております。少量生産ながらも高付加価値のものづくりを行っています。



南部菱刺研究会つづれや

草木染め上げた木綿糸で麻布に刺繡をする「南部菱刺し」の技術を用いて、現代の暮らしと調和した商品を製作しています。商品の製作のみならず、ワークショップも各所で開催等、積極的に活動し、先人の知恵を後世に受け継いでいます。布製品はもちろん、デニムや皮を使った製品も製作しており、常に新しい発想でのづくりをしています。

